



第376号・平成22年8月発行

○諸 報

- トリボン読書会第1弾を実施
- 「小樽商科大学緑丘奨励金授与式」を挙行
- 小樽商大、潮ねりこみコンテストを連覇！
- “おたる潮まつり” 会場で商大百周年をPR

○FD コラム

- 英語 e-Learning 授業について(1) 「させっぱなし」にしないために
- なぜ大学進学率が50%を超えたのか？ —大学進学人口と大学数との関連—

○主要日誌

- 平成22年7月主要日誌

○行事予定

- 平成22年8月予定

トリボン読書会第1弾を実施

本学附属図書館では、7月6日(火)午後5時半から7時まで、附属図書館アメニティコーナーにおいて、トリボン読書会を開催しました。

3月に発行しました「図書館を10倍楽しく利用できる本－ブックガイド2010」（愛称トリボン）の有効活用とアメニティコーナーの利用普及の宣伝のため、また、本年は国民読書年であることから読書会を企画しました。第1弾となる今回は、『文学入門/伊藤整』を推薦してくださいました鈴木将史教授（言語センター）を講師に迎え、「伊藤整の『文学入門』を読む」というテーマで開催しました。学生を中心に18名（1名は学外からの参加者）が参加され、鈴木先生が本の概略をお話下さり、その後講師との活発な意見交換が行われました。鈴木先生の『金色夜叉』の一節の熱の入った朗読には、受講生から喝采の声が上がりました。

受講者からは、

- ・読書会という集まりに出たのは、初めてだったんですけど、とてもおもしろかったです。
- ・文学を、全体的にとらえることができたので、とても良かったと思います
- ・とても楽しかったです。次回も時間の都合が合えば聴きにきたいです。

といった意見・感想が寄せられました。

秋に第2弾の読書会を計画中です。

(学術情報課)



(鈴木教授による講義)



(意見交換)

「小樽商科大学緑丘奨励金授与式」を挙

7月8日（木）に学長室において、緑丘奨励金授与式が行われました。

「緑丘奨励金」は、本学の同窓会組織である社団法人緑丘会よりの援助を受け、学部生及び修士課程は1年次に、博士後期課程は2年次に、優秀な成績を修めた学部生10名と大学院生3名に、奨励金を授与する制度です。

山本学長から、各人に奨励金が授与されるとともに、学長並びに緑丘会理事長から励ましのお言葉をいただき、式を終了しました。

（学務課）



（授与式後の記念撮影）

前列は授与された学生、後列左から齊藤事務局長、大矢副学長、山本学長、緑丘会齊藤理事長、緑丘会小塚常任顧問、奥田副学長

小樽商大、潮ねりこみコンテストを連覇！

7月24日（土）、本学は、小樽最大のお祭りである「おたる潮まつり」のメインイベント「潮ねりこみ」に参加し、梯団の踊りを審査する「潮ねりこみコンテスト」において、昨年の初優勝に続き2連覇を果たしました（今年は北一硝子との同点優勝）。

平成3年の初参加から今年で20回目の参加となる商大梯団には、教職員・学生・留学生ら過去最多の計110名が参加しました。

当日は、北大との対面式が復活した応援団が先頭に立ち、翔楽舞（よさこいソーランサークル）など学生たちのパフォーマンスに沿道からも大きな声援が飛んでいました。

他にも来年7月7日に創立百周年を迎えることを周知する特製うちわの配布や祭会場へのブース出展など、踊り以外の面でも多くの市民へ創立百周年をアピールしました。

（学務課）



（山本学長と商大挺団）



（見物客から好評だった応援団）



（よさこいサークル「翔楽舞」）



（ねりこみ後の宴会）

“おたる潮まつり”会場で商大百周年をPR

7月23日から25日まで開催された第44回おたる潮まつりの期間中、メイン会場となる第3埠頭に、商大百周年をPRするブースを設置して、パネル展示やグッズの販売、百周年記念事業参加のお知らせチラシの配付を行いました。

初日はあいにくの雨に見舞われ、思うように客足も伸びませんでした。潮ねりこみが実施される24日以降は天気にも恵まれ、テントの中に入ってパネル展示を念入りにご覧になる方やグッズをお買い求めくださる方がたくさんいらっしゃいました。

学生スタッフの協力で実現したこの催しですが、地元小樽市民に商大百周年をPRするよい機会となりました。

(総務課)



(テントには応援団の幟を設置してアピール)



(カウンターでは商大グッズを販売)

英語e-Learning授業について（1）「させっぱなし」にしないために

言語センター助教 横村 栄美

はじめに

平成20年度より、英語科目に、1年生対象のe-Learning科目『英語ID（半期1単位：前期、後期各4クラスと、再履修クラス1クラス）』が開設されました。平成21年度には、2年生対象のe-Learning科目として、『英語IIA2/IIB（半期1単位：前期、後期各4クラス）』（平成22年度より『英語IIA2/IIB2』）が開設されました。このe-Learning科目は、卒業後の就職や進学を考慮し、全学的にTOEICを導入する必要性を考え、学生に、統一した学習機会を与えることを目的としたクラスとなっています。

以来、担当者として、学習の指導をしてきました。どちらの授業も、パソコンを使って学習を進めるため、「させっぱなし」にならないよう、また、「飽き」がこないよう、学生の様子を見つつ、進めています。これまで担当してきて、自分なりに工夫してきたと思う点を挙げてみます。

1. オリエンテーションでの説明

1回のオリエンテーション時間を長くし、授業の流れ、成績評価、使用する学習ソフト等を、スライドやパソコン画面を実際に見せながら、詳しく説明しました。情報処理センターの第一実習室で授業を行っていますが、この教室は、授業がないときは自由開放されており、その延長気分で授業を受ける学生がいます。授業中にもかかわらず、趣味のホームページや動画を見る学生がおり、頭が痛いところです。このような状況も踏まえ、今年度は、進めるべき学習の目安とともに、「一発不可」の条件をいくつか挙げました。配布資料にこれらの条件も記載し、オリエンテーションの欠席者にも、後日、資料を配布しました。

2. ホームページ・掲示による連絡

[授業のホームページ](#)を作成し、主に、①学習ソフトのショートカット、②授業に関する連絡事項、③小テストの結果、④学習の進捗状況、の4点を掲載しています。①については、商大君のアイコンにリンクを貼り、それをクリックすれば、学習ソフトのログイン画面に入れるようにしてあります。そうすることで、毎回、URLを入力する必要がありません。②は、遅刻や欠席の学生にも連絡漏れがないよう、授業で連絡している内容と同じ事項を載せています。更新しても、過去の連絡事項はすべて残し、確認できるようにしてあります。また、オリエンテーションで説明した、小テストの日程や成績評価についても、掲載しています。③については、『英語ID』は半期に2回、『英語IIA2/IIB2』は半期に3回、小テストをしているので、その結果を掲載しています。平均点、最高点、最低点を確認することで、学生個人個人の次の学習の目安となっていると思います。④については『英語IIA2/IIB2』のみですが、学習の目安としている、「習熟証明番号7つ取得（※1）」に向けて、毎週の取得状況を掲載しています。これにより、自分と同じ進捗状況の学生を知ることができ、学習の進め方の目安にすることができます。

※1 『英語IIA2/IIB2』で使用しているNewtonの学習ソフトには、50のサブコースがあり、そのうち、7つ以上を終えることを指示しています。ひとつのコースをすべて学習し終わると、「習熟証明番号」という番号が発行されます。

3. パワーポイントの使用

毎回、授業の始めに、授業のホームページを確認するように指示していますが、同様の連絡事項を、パワーポイントのスライドで表示しています。また、授業中は、学習の進め方をスライドで提示しています。終了後は後片付けや小テストの予告等の注意事項を提示しています。毎回、同じデザイン、同じ内容のスライドを使っていますが、時々、連絡事項や進め方を少し書き換えています。

4. 小テスト

『英語ID』は半期に2回、ペーパーによるテストを課し、『英語IIA2/IIB2』では月に1回、学習ソフトに付属しているテストを課しています。毎回、ただ学習ソフトを進めるだけでは、飽きてしまったり、実力を測ることができないので、定期的にテストをすることで、授業に変化をつけています。

『英語ID』では、定期試験の代わりにTOEIC IP Testを課しています。ペーパーテストは、本番の流れをつかむためにも、よい機会だと考えています。

5. 「やったなり」の成績評価

e-Learning授業ですので、成績評価も機械的になります。たとえば、『英語ID』は、TOEICスコアで400点以上を取ることが単位取得の条件です。スコアによって、「秀」から「不可」までの評価がつきますが、これに、通常の学習状況を点数化し、TOEICスコアに加えて、最終評価としています。場合によっては、TOEICスコアの成績基準よりもよい評価がつくこともあります。『英語IIA2/IIB2』については、成績評価の最低基準を設けていますので、最低基準以上の学習を進めた場合、多く進めればその分、高い成績評価になるようにしています。また、1レッスン毎や1週間毎の進捗状況を確認し、学習の進捗の遅い学生については、面談等での対応をしています。特に、課題の3分の1を以上進めているのに、小テストの成績が良くなかったり、小テストを毎回受け、出席もほとんどしているのに、学習が思うように進んでいない学生などを調べ、面談をしています。

6. e-Learningなりの指導

e-Learning授業ですので、授業では、何を学習するか、どの課題を進めるかは学生によって変わってきます。『英語ID』では、毎回、学習するレッスンを指示していますが、『英語IIA2/IIB2』は、学生が、どのコースのどのサブコースを学習するか、各自で決めて進めます。ある程度、授業の回数が進めば、学生は各自で学習できるため、特に何かを指導するという必要はありません。しかし、だからといって、学生アシスタントだけに授業を任せ、教員が教室に不在にするわけにもいきません。通常、授業では、私も教室に常駐し、進捗状況のチェックや教室内を見回って学生の様子を見たりしています。

『英語ID』では、毎回、出席と学習内容の確認を兼ねた表を提出してもらっています。学生は、授業の終わりに、その日の学習内容を記入し、提出します。それをこちらで確認し、コメントをつけて、次の授業で返却します。これを毎回繰り返しています。この方式は昨年度の授業から始めました。一言でもコメントをつけることで、学生の学習内容を見ていることを伝えられますし、簡単な質問のやりとりも可能です。また、学習ソフトによってはテストのようにスコアが出るものがあります。そのスコアも記入させているので、学生個人が、どのくらい学習していて、どのくらい力が伸びてきているか、確認することもできます。

終わりに

英語e-Learning科目は必修科目であるため、1年生、2年生は全員、履修します。授業については学生アシスタントを使い、私が一人で担当していますが、成績評価基準等は英語教員全員で話し合ってきました。

これまで3年間、e-Learning科目を担当してきて、e-Learningだからこそ細かい指導の必要性を感じてきました。学生に同一の学習環境を与えることができますが、ただ「やりなさい」というだけでは、学生は何のために学習しなくてはならないのか、理解してくれません。毎年、指導の方法や成績評価の基準を考え、変えてきた結果、自主的にTOEICの必要性に気づき、継続して学習する3年生以上の学生が増えてきたように思います。

このコラムに関するご意見があれば[教育開発センター](#)までお知らせください。

なぜ大学進学率が50%を超えたのか？－大学進学人口と大学数との関連－

教育開発センター助教 辻 義人

【1. 大学のユニバーサル化】

2009年度、四年制大学への進学率が初めて50%を超えました。これは、望めば必ずどこかの大学に入学できてしまう「大学全入時代」「大学のユニバーサル化」と呼ばれている現象です。これまで、そのメリットやデメリットについて、多くの議論がなされてきました。例えば、メリットとして、多くの若者に高等教育を受ける機会を与えられるようになったことが挙げられます。その一方、デメリットとして、学力や背景の多様化によって教育活動が困難になること、学習に対するモチベーションが低い学生が増加することなどが指摘されています。今後、ユニバーサル化に合わせた大学教育のあり方についての議論が、さらに活発化することが予想されます。

【2. 大学進学率が上昇を続けた理由とは？】

上記の通り、大学進学率が50%を超えたことは、すでに多くの方がご存じのことと思われる。しかし、これまで大学進学率がどのような経緯をたどり、なぜ50%を超える事態になっているのかについて、詳しく紹介している資料は必ずしも多くはありません。そこで本稿では、大学進学率の推移に注目し、大学のユニバーサル化が生じた経緯を紹介します（詳細は、海老原, 2009を参照）。

大学進学率の推移を、図1に示します。1980年代後半、大学進学率はおよそ25%弱で推移してきました。それ以降、1990年代前半から、大学進学率は緩やかに上昇を続け、2009年度に初めて50%を超えたことが読み取れます。つまり、1980年代後半には、およそ4人に1人が大学に進学していた割合でした。ところが、2009年には、2人に1人が大学に進学するようになったのです。

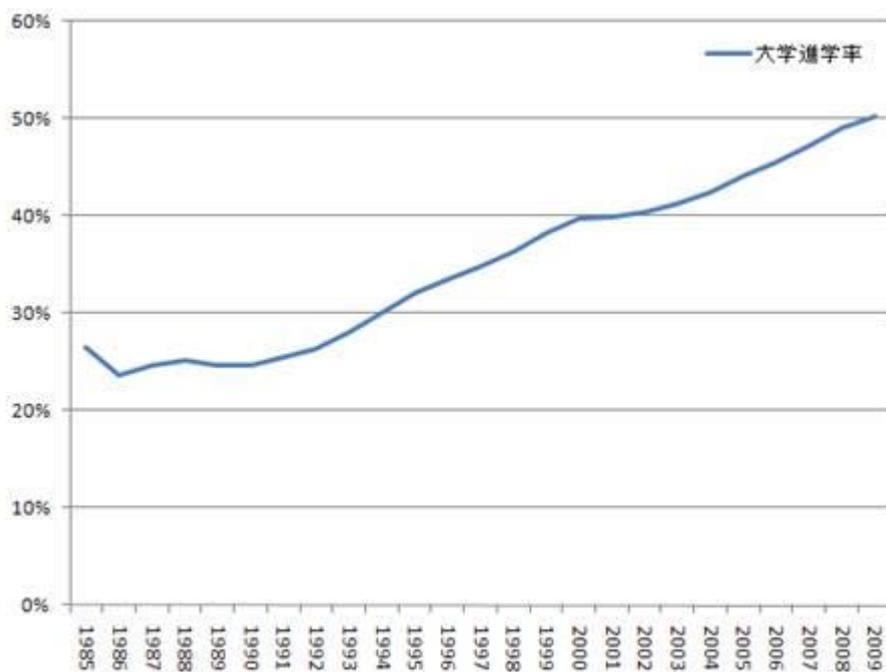


図1 大学進学率の推移（1985～2009）

大学のユニバーサル化の経緯を読み解くには、大学進学率のグラフだけでは不十分です。そこで、図2では、大学進学率と19～22歳人口（主に大学に入学する年齢人口）を示します。ここで、特に19～22歳人口（図中、赤線）に注目すると、1993年に最も多く、約816万人であることがわかります。それに対して、2009年には、19～22歳人口は約513万人となっています。このように、1990年代前半から、大学進学率が上昇を続ける一方、19～22歳人口は減少し続けていることがわかります。

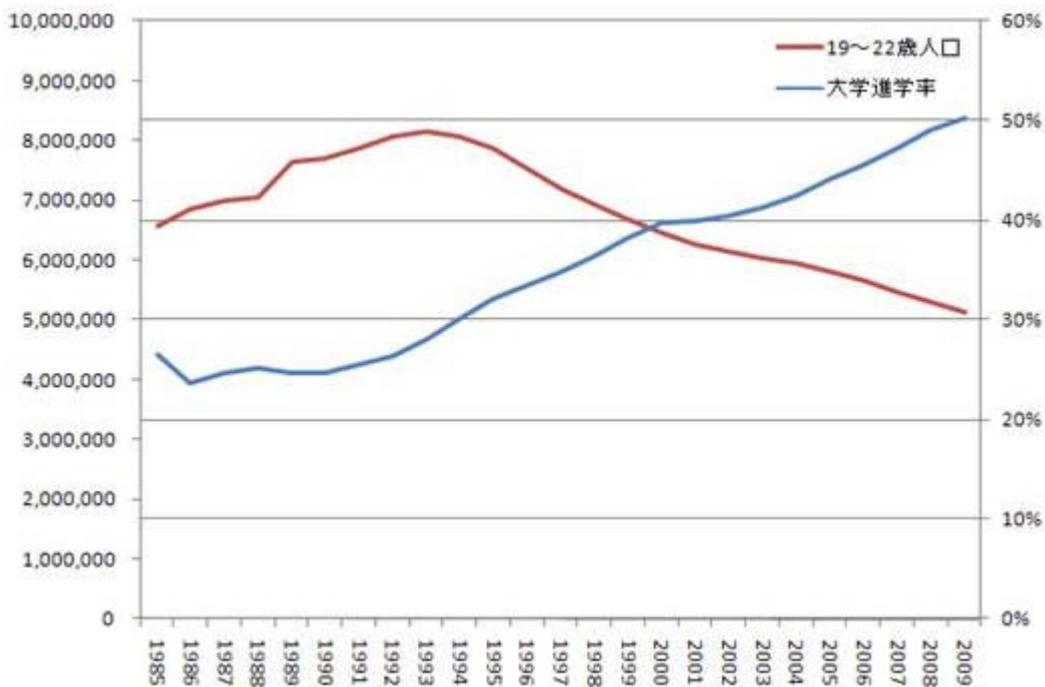


図2 大学進学率と19～22歳人口の推移

各年度の大学進学率と、19～22歳人口のデータを用いることで、その年度ごとの実際の大学生数を計算することができます。ここで、1993年、2000年、2009年を対象に、大学生数の推移を計算すると、以下のような結果となりました。

- ・最も19～22歳人口が多かった1993年の大学生数は、約240万人
- ・中間の時期である2000年の大学生数は、約275万人
- ・大学進学率が50%を超えた2009年の大学生数は、約285万人

この結果より、大学進学率が顕著に上昇している一方、大学生数はそれほど増加していないことがわかります。この模式図を図3に示します。1993年の大学進学率は、約25%でした。また、2009年の大学進学率は、約50%でした。大学進学率のみに注目すると、ここには2倍程度の違いがあります。しかし、実際の大学生数は、さほど大きく変化していません（正規分布の斜線部分の面積は、さほど変化していません）。

このことから、大学進学率が50%を超えた理由を推測することができます。1990年代前半から、19～22歳人口は一貫して減少しています。その一方で、大学の受け入れ学生数（大学入学者数）は一定であり続けました。そのため、大学進学率が50%を上回る現象が生じたものと考えられます。

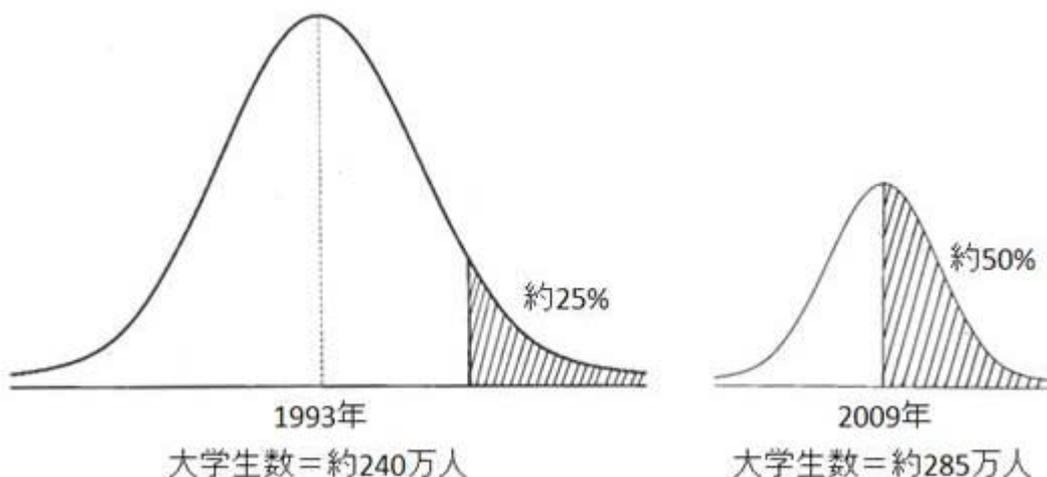


図3 大学進学者数の比較イメージ (1993年と2009年)

【3. 今後、大学進学率はどう変化するのか？】

本稿では、大学進学率が50%を超えた経緯について、大学入学者数との関係から紹介してきました。では、今後、大学進学率はどのように変化するのでしょうか。この点については、19～22歳人口と大学数との関連に注目する必要があります。図4は、1980年代後半からの大学数の推移を示したものです。1985年には450校程度であった大学数が、2009年には800校弱

にまで増加していることがわかります。本来、19～22歳人口に合わせて推移すべきであった大学数が、緩やかな増加を続けています。このように、大学の受け入れ学生数が増加し続けていることも、大学進学率の上昇につながる理由の一つといえるでしょう。

今後の大学進学率に関しては、大学数の変化に注目する必要があります。2010年夏の時点において、各地で大学の統廃合に関するニュースが聞かれるようになってきました。今後、競争力のない大学は、存続が困難となることが考えられます。このことによって、19～22歳人口の大学入学の受け皿が減少することから、今後とも大学進学率が上昇し続ける可能性は低いことが予想されます。今後しばらく、大学進学率は50%近くを維持すると思われませんが、その後は低下し、適切な割合で推移するのではないのでしょうか。

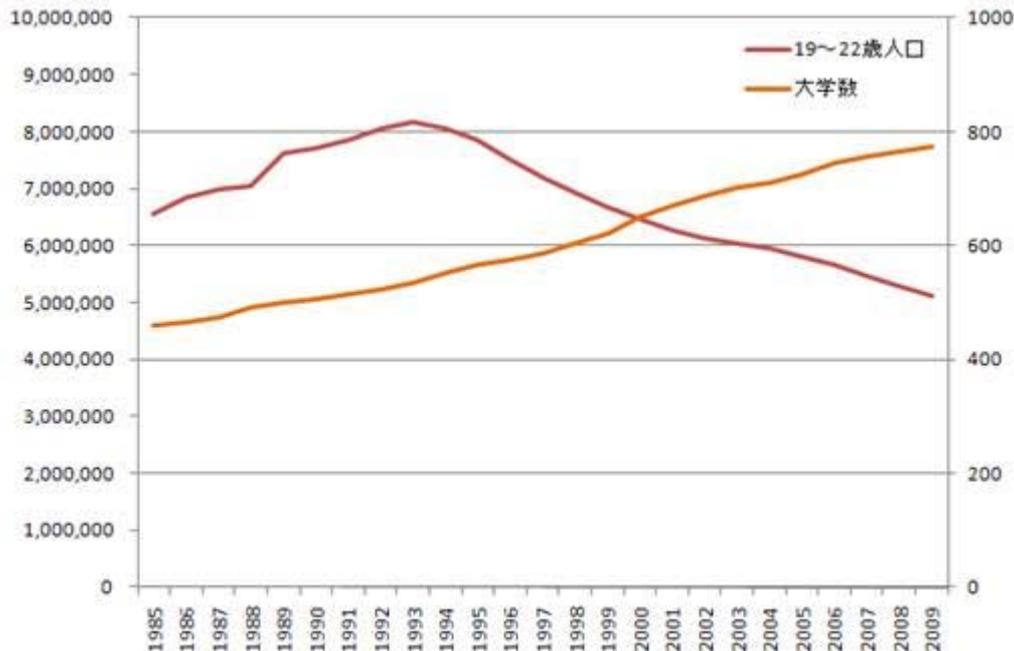


図4 19～22歳人口と大学数の推移

【4. 本稿のまとめ】

本稿では、大学進学率が50%を超えた経緯について、19～22歳人口と大学数の観点から考察し紹介しました。その結論を、以下の通りにまとめました。今後、ユニバーサル化した大学において、どのような教育活動が求められるのか、引き続き情報収集と検討が求められています。

問1) どのような経緯で、大学進学率が50%を超えたのか？

回答1) 1990年代前半を境に、19～22歳人口は減少の一途を辿っている。その一方、大学入学者は減少せず、むしろ微増する傾向にあった。このため、19～22歳人口における大学入学者の割合が徐々に上昇し、2009年に50%を超えたといえる。

問2) 今後、大学進学率はどのように変化するのか？

回答2) 大学進学率の上昇には、大学数の増加が関連していることが考えられる。これまで、大学数は1980年代後半から一貫して増加傾向にあった。しかし、現在、競争力の乏しい大学の存続が困難になりつつあることが指摘されている。このことから、今後の大学進学率は、大学の統廃合の状況に合わせて低下すること、そして、その後は安定したレベルで維持されることが予想される。

(参考資料)

海老原嗣生 (2009) 学歴の耐えられない軽さやばくないか、その大学、その会社、その常識, 朝日新聞出版

このコラムに関するご意見があれば[教育開発センター](#)までお知らせください。

主要日誌

平成22年7月

1	木	10:00～アントレプレナーシップ専攻入試委員会（第2） 10:30～学生論文賞実施委員会（研究棟B）
2	金	9:50～平岡高校PTA来学（第1）
5	月	16:10～国際交流委員会（研究棟B） 18:30～アントレプレナーシップ専攻オープンクラス<西山先生>（札幌サテライト）
6	火	10:30～現代商学専攻入試委員会（第2） 10:30～大麻高校PTA来学（第1） 12:00～旭川龍谷高校生徒来学（第1） 18:30～アントレプレナーシップ専攻オープンクラス<近藤先生>（札幌サテライト）
7	水	創立記念日（休日） 留学生見学旅行（支笏湖ほか）
8	木	16:15～緑丘奨励金授与式（学長室） 18:30～アントレプレナーシップ専攻オープンクラス<李・籾本先生>（札幌サテライト）
9	金	9:00～現代商学専攻教務委員会（第2） 13:00～学生生活実態調査実施専門委員会（第2）
10	土	9:00～第57回（平成22年度）北海道地区大学体育大会 （小樽公園弓道場、～12日）
12	月	15:00～課長会（局長室）
		9:00～学生委員会（第2） 17:15～現代商学専攻入試説明会<博士前期>（大学会館多

13	火	目的ホール) 20:00～アントレプレナーシップ専攻オープンクラス<堺先生> (札幌サテライト)
14	水	10:30～ アントレプレナーシップ専攻会議 (第1) 14:34～ 学部・大学院合同教授会 (第1) 14:55～ 学部教授会 (第1) 15:01～ 現代商学専攻会議 (第1) 15:11～ 教育研究評議会 (第1) 18:30～アントレプレナーシップ専攻オープンクラス<出川先生、福重先生> (札幌サテライト)
15	木	19:00～現代商学専攻入試説明会<博士前期・後期> (札幌サテライト)
16	金	18:30～アントレプレナーシップ専攻OBSフォーラム (札幌かでの2.7)
20	火	13:00～学部・教育開発部門会議 (第2)
21	水	11:00～留萌高校来学 (251講義室) 14:30～ 教授昇任学部教授会 (第1) 18:30～アントレプレナーシップ専攻入試説明会 (札幌サテライト)
22	木	10:30～教務委員会 (教育担当副学長室) 13:30～受託研究受入審査委員会 (総務・財務担当副学長室) 15:30～弘前南高校教員来学 (第1)
23	金	13:00～入試広報・高大連携専門部会 (教育担当副学長室) 15:00～学生生活実態調査実施専門委員会 (教育担当副学長室)

26	月	13:30～課長会（局長室） 16:00～役員会（第2）
27	火	10:00～図書館会議（図書館会議室）
28	水	14:30～図書館運営委員会（図書館会議室）
29	木	13:00～入試委員会（第2） 14:30～インターンシップ専門部会（教育担当副学長室） 17:00～衛生委員会（総務・財務担当副学長室）
30	金	17:15～学生生活なんでも相談室連絡会議（教育担当副学長室） 18:30～アントレプレナーシップ専攻入試説明会（札幌サテライト）

行事予定表（8月）

1	日	10:00～アントレプレナーシップ専攻入試委員会（第2）
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	17:30～短期留学プログラムフェアウェルパーティ（大学会館多目的ホール）
6	金	11:00～H22年度小樽商科大学オープンキャンパス
7	土	
8	日	
9	月	15:00～「創立百周年プレイベント」史料展示室オープン記念講演会（104講義室） 16:40～史料展示室オープニングセレモニー&展示室見学（史料展示室） 17:30～小樽商科大学ビアパーティ（大学会館前）
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	10:00～高校生のための夏期連続講義（札幌サテライト、～15日）
15	日	11:59～緑丘戦没者慰霊祭（慰霊塔前）
16	月	平成23年度現代商学専攻博士前期課程前期入学試験出願期間（～26日）

17	火	
18	水	
19	木	
20	金	
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	
25	水	
26	木	平成23年度アントレプレナーシップ専攻入学試験出願期間 (～9月6日)
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	小樽商科大学シニアアカデミー2010 (～9月3日)